

取組の概要

対象畜種

肥育牛

協議会構成員

畜産農家、耕種農家、岡山東農業協同組合、フタバ飼料株式会社、和気町、岡山県備前県民局、岡山県東備農業普及指導センター

飼料用米生産面積

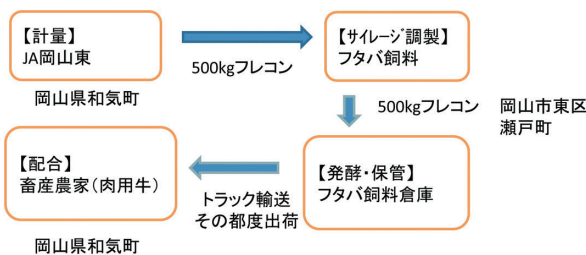
7.2ha

供試品種

アケボノ 7.2ha

取組内容

① 飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



◆フタバ飼料倉庫から畜産農家までの移送は、畜産農家が実施。

◆畜産農家で配合し、TMRとして給与を実施。

② 飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査

◆飼料分析結果1（糶サイレージ）

水分	61.2%	NFE	22.7%
粗蛋白	6.7%	粗灰分	1.9%
粗脂肪	2.6%	ADF	6.3%
粗繊維	4.6%	NDF	7.8%

◆飼料分析結果2（TMR）

水分	29.7%	NFE	38.8%
粗蛋白	12.4%	粗灰分	4.0%
粗脂肪	3.3%	ADF	15.0%
粗繊維	11.5%	NDF	23.8%

◆調査項目：糶の消化性、嗜好性

③ 飼料用米を利用した畜産物の普及活動

◆飼料用米の供給を受けた肥育牛農家は、独自に『備前牛』ブランドで出荷していますが、そのブランド要件に飼料用米の給与は謳っていません。

◆今後、配合割合が高まれば、要件に加えることも検討しています。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 糶を乾燥せずにサイレージ加工が可能でした。
- 糶殻の破碎を行わなくても、発酵調製して1週間後には、糶殻を指で押しつぶせるほど柔らかくなりました。
- 糶に未消化な糶が出ることはありませんでした。
- サイレージ化するため、収獲的に天候に左右されない利点があります。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 糶サイレージを利用した飼料は、嗜好性が高く、今後飼料として有望と思われます。
- 肥育牛の体調に影響はみられませんでした。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 転作作物の中でも、飼料用米は耕種農家がこれまでの作業体系を変えずに取り組むことが可能であり、水田の機能も維持もできることから、高い関心を得ています。
- 消費者の食の安全安心への関心の高まりや、輸入飼料価格の高騰の影響等により国産飼料への要望が高まっています。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 和気町で飼料用米の供給を受けている肥育牛農家は非常に大規模であるため、まだまだ受入能力があり、更なる生産拡大を望んでいます。

■近隣市の採卵鶏農家が飼料用米の受入を希望していますが、耕種農家との繋がりが少ないため、関係指導機関が仲介役となり、耕畜連携を推進していく予定です。

■JA岡山東では黒大豆の生産が盛んでしたが、販売単価の低迷により生産意欲が低下しています。そこで、黒大豆に代わる転作作物として飼料用米がクローズアップされており、推進の好機が訪れています。

事務局：JA岡山東和気営農物流センター 片山

参考データ・写真等

収穫～給与の流れ



収穫



計量



調製



糲入りサイレージ



給与